

会 議 録	
会議名称	第2回 長野市立長野中学校・長野高等学校改革検討委員会
開催日時	令和8年7月17日 午前11時45分から午後12時35分まで
開催場所	市立長野中学校・長野高等学校 小会議室
出席者	委員) 高口委員長、小林副委員長、結城委員、千野委員、 青木(十)委員、青木(大)委員、常田委員、市川委員 職員) 唐木教育次長、市立長野高等学校兼市立長野中学校 廣田校長 市立長野高等学校 原事務長、矢澤教頭 市立長野中学校 宮崎副校長 学校教育課 山口課長、山本教頭兼主任指導主事、五明課長補佐
議 題	(1) 市立長野中学校概要及び市立長野高等学校入試形態別合格状況 (2) 生徒との懇談に係る情報共有 (3) 意見交換
議事内容 及び 決定事項	(1) 市立長野中学校概要及び市立長野高等学校入試形態別合格状況 ・資料に基づき、市立長野中学校の入学選抜の概要、独自の取組、市立長野中学志願者・入学予定者推移について事務局から説明。 ・資料に基づき、第1回委員会で質問のあった市立長野高校生徒の大学受験入試形態別合格状況について事務局から説明。 (2) 生徒との懇談に係る情報共有（生徒からの意見要旨） （市立長野の魅力・強み・志望動機等） ・主体的に学べ、探究学習ができる環境がある。 ・中入生の英語力が高く、海外研修など国際交流学習が充実している。 ・広い地域から生徒が集まり、多様な個性の友人と関わることが楽しく刺激的である。 ・学校施設が充実している。 ・部活動が全国レベルで活躍している。 ・自由かつ主体的に学べる総合学科である。 ・中学校の体験学習が充実している。 （要望・課題等） ・部活動に係る施設改善や金銭的支援をしてほしい。特に固く怪我が起きやすいグラウンドを改善してほしい。 ・高校でもグループ討議や自己表現ができる時間を確保してほしい。 ・地域展開で中学校の部活動がなくなったことは残念に感じる。 ・総合学科という特色、市立長野の良さを積極的かつ様々な方法で情報発信することが大切だと思う。 ・中高合同授業を増やしてほしい、中学生のうちから高校の勉強にもチャレンジしたい。 ・探究学習を深化させる時間を増やしてほしい。また他校との共同研究や専門的な話を聞ける機会がほしい。

	・ 中学校と高校の指導方法のギャップに戸惑う。 ・ 勉強を頑張る生徒と部活動を頑張る生徒との意識差がある。 ・ 中入生には高校受験がないため、学習意欲に個人差がある一方、探究学習等に注力できるメリットもある。 ・ 自由を尊重し校則が緩いのではないかな。
	(3) 意見交換
	【議事内容（発言要旨）】
青木（大）委員	探究学習について、深さや広がりを求める意見があった。生徒たちの意見を聞き、探究学習を深化させる時間、生徒たちが自分のやりたいことをするためにデザインできる時間を増やせたらいいなと感じた。
結城委員	高校からの生徒は部活動や探究学習という特徴で選んでいる一方で、中学からの生徒は学校として選んできていた。学校として、部活動をやりたい生徒と勉強を頑張りたい生徒が両立できるのか、すみ分けるべきなのかというのは一つの論点かと思う。 探究学習については、高校2年生までは熱心に活動しているが、その後うまく接続されていないとの話があった。学会等に接続し、そこで発表できる発展性があれば、さらに良くなると感じた。将来の進路と探究テーマがリンクすることも重要だが、リンクしなくても物事を探究的にとらえ、社会で役立つ突き詰める力を養うことも大切である。生徒に、そのような力を養う活動になるとさらに良くなるのではないかな。
市川委員	探究学習や様々な活動の中で、課題に気づき、発見し、データに基づき改善に取り組み、実際に活動している生徒たちの姿に感動した。さらに、中学校で行われている多様な英語学習を高校のカリキュラムへも繋げてほしいという貴重な話も伺った。課題解決の力と英語学習はグローバルな社会での活躍に繋がると思う。
青木（十）委員	探究学習を通じて自主自立の姿勢が養われ、生徒が地元就職し地元の課題に向き合いたいと思っていることに驚いた。高校生には課題を見つめる視点が養われているので、カリキュラム編成に生徒が希望を言える仕組みがあっても面白いと感じた。探究学習は、課題を解決するだけでなく、一人ではできない課題に様々な人を巻き込んで取り組むことも大切である。 今後検討していく中で、改革として学校が一皮むけなければいけないという話と、施設や設備の改善という話は切り分けることが必要だと感じている。

	千野委員 生徒の市立長野に対する満足度の高さに驚いた。その魅力の源泉は、探究学習、総合学科、多様な生徒と交流できることであると感じた。探究学習には深さと広がりを求める意見があった。中高一貫については、中入生から先取り学習の希望もあったが、高入生とのバランスをどうとるかが課題である。市立長野は、生徒と社会との調和、つながりを導く端緒になっていると強く感じた。 小林副委員長 中入生、高入生ともに市立長野は素晴らしいという思いを持っており、質問にも誠実に答えてくれた。クリアウォーター市との国際交流等の生徒の視野を広げる機会、体験を大切にすることが市立長野の魅力向上につながると思う。スポーツ推薦の生徒との学力差を指摘する意見もあったが、部活動を頑張りたい生徒と勉強を頑張りたい生徒が互いに良さを認め合い、互いの相乗効果でより魅力的な学校になってほしい。 廣田校長 生徒の話を聞き、今まで積み上げてきた仕組みが成果を上げていることを実感した。これから、その仕組みにどう魂を込めるか、さらに一皮むけるために何が求められるかを議論いただきたいと思う。
会議資料	資料 1 次第 資料 2 第 2 回長野市立長野中学校・長野高等学校改革検討委員会資料 資料 3 2026 学校案内（長野市立長野中学校） 資料 4 令和 8 年度長野市立長野中学校の適性検査問題の作成方針
事務局 (担当課)	長野市立長野中学校 長野高等学校（担当：原） 電話 026-296-1241（直通）／FAX 026-296-1242
注 1）会議録には出席者や発言者名を記載することとするが、氏名を省略するなど記載方法を審議会等で決定した場合は、その決定に従うこととする。	